



2026年千正寺カレンダー 4月の言葉（めんじゅ）



「面授」とは、師が弟子に、対面して直に伝授・口授することを言います。禅宗の開祖である道元禅師は『正法眼蔵』の中で、「面授なくして、仏法は決して伝わらない」と断言されています。本を読んで理解するだけでは、それは単なる「情報」であり、生きた「仏法」ではないという厳しい姿勢が、禅宗の「面授」には流れています。

浄土真宗では、必ずしも「面授でなければいけない」とは言いませんが、親鸞様は、法然さまとの出会い＝面授によって、生きる意味が、根底から変えられました。9歳で比叡山に上り、19歳の時、観音様から「あなたの命あと10年」と告げられた親鸞様…。そして29歳の時、出会われたのが、「専修念仏（せんじゅねんぶつ）」を説く法然様でした。

専修念仏とは、「阿弥陀様が、必ず極楽浄土に迎え取り、仏様にして下さる」とお聞かせ頂き、素直に「南無阿弥陀仏」と口に称えることで、救われるというみ教えです。

このみ教えに救われた親鸞様は「たとえ法然さまに騙されて、地獄に堕ちても後悔はしません」とまで言い切るほど、絶大な信頼を置かれました。この時、法然様から賜ったものが、①法名 ②「選択集」の書写 ③法然様の絵でした。

①「釋綽空」という法名は、道綽禅師の「綽」と「法然坊源空」の「空」の字を合わせたものでした。

②「選択集」は、法然様の著書。この本の書写を許されたのは、十人に満たなかったといえます。本当に信頼できる弟子のみに許されたものでした。

③「法然様の絵」は、法然様に直々に会ってみ教えを伝授された面授の弟子の証でした。

仏事の解説書には、「亡き人のお写真は、仏壇に入れたい」と書いてあります。でも、親鸞様や蓮如様の絵は掛かっています。なぜでしょう？

これは、私たちは親鸞様や蓮如様を「師」と仰ぎ、その教えを受け継ぐ「帰依」の意味があるんですね。世界ではいくつもの戦争が起き、国内でも物価高に悩む私たち…。いつ何が起こるか分からない、今を生きている私たちに「苦しみ悩みは尽きないけれど、決して空しく終わっていく命ではありませんよ。必ず、お浄土に生まれ、尊い仏様と成る命を精一杯生きて下さいね！」と呼び掛けて下さる親鸞様や蓮如様のお姿に、今日も面授させて頂きましょう。合掌

（本文：桜庭尚吾法務員）